
敦賀発電所2号炉

敷地の地形，地質・地質構造について
令和3年6月28日提出資料からの修正箇所

令和3年7月16日

日本原子力発電株式会社

余白

令和3年6月28日提出資料からの修正箇所

No	修正箇所		確認箇所	深度		破碎帯名	修正内容
	資料名	頁数		上端	下端		
1	本編	124	H27-B-1	34.54	34.59	非モデル化	方位記号の記載の修正を行った。
	補足説明資料3	補足3-83					
2	本編	138	H27-B-1	52.72	52.81	非モデル化	図1と図2の標尺が入れ替っていたため修正した。
	補足説明資料3	補足3-103					
3	本編	141	H27-B-1	69.70	69.73	非モデル化	説明文及び拡大写真の図番の誤りを修正した。
	補足説明資料3	補足3-110					
4	本編	161	H27-B-2	68.02	68.06	非モデル化	説明文に図番を記載していたため削除した。
	補足説明資料3	補足3-152					
5	補足説明資料3	補足3-20	H24-E-2	13.23	15.82	K断層	観察模式図における傾斜(60° W)の記載漏れを修正した。
6	補足説明資料3	補足3-34	H24-H-6-1	9.58	14.36	K断層	シュミットネットの表示を修正した。※
7	補足説明資料3	補足3-43	H24-H-13	8.89	9.80	K断層	拡大写真左側のカラーバーの記載漏れを修正した。
8	補足説明資料3	補足3-55	H24-D1-1	53.77	54.54	非モデル化	薄片写真に不要な破線が入っていたため削除した。

※過去の審査会合資料(第833回審査会合)の誤記であるため補足説明資料4に追加した。なお、補足説明資料4に用いている修正後の薄片観察結果を令和3年6月28日に提出したものへ更新した。

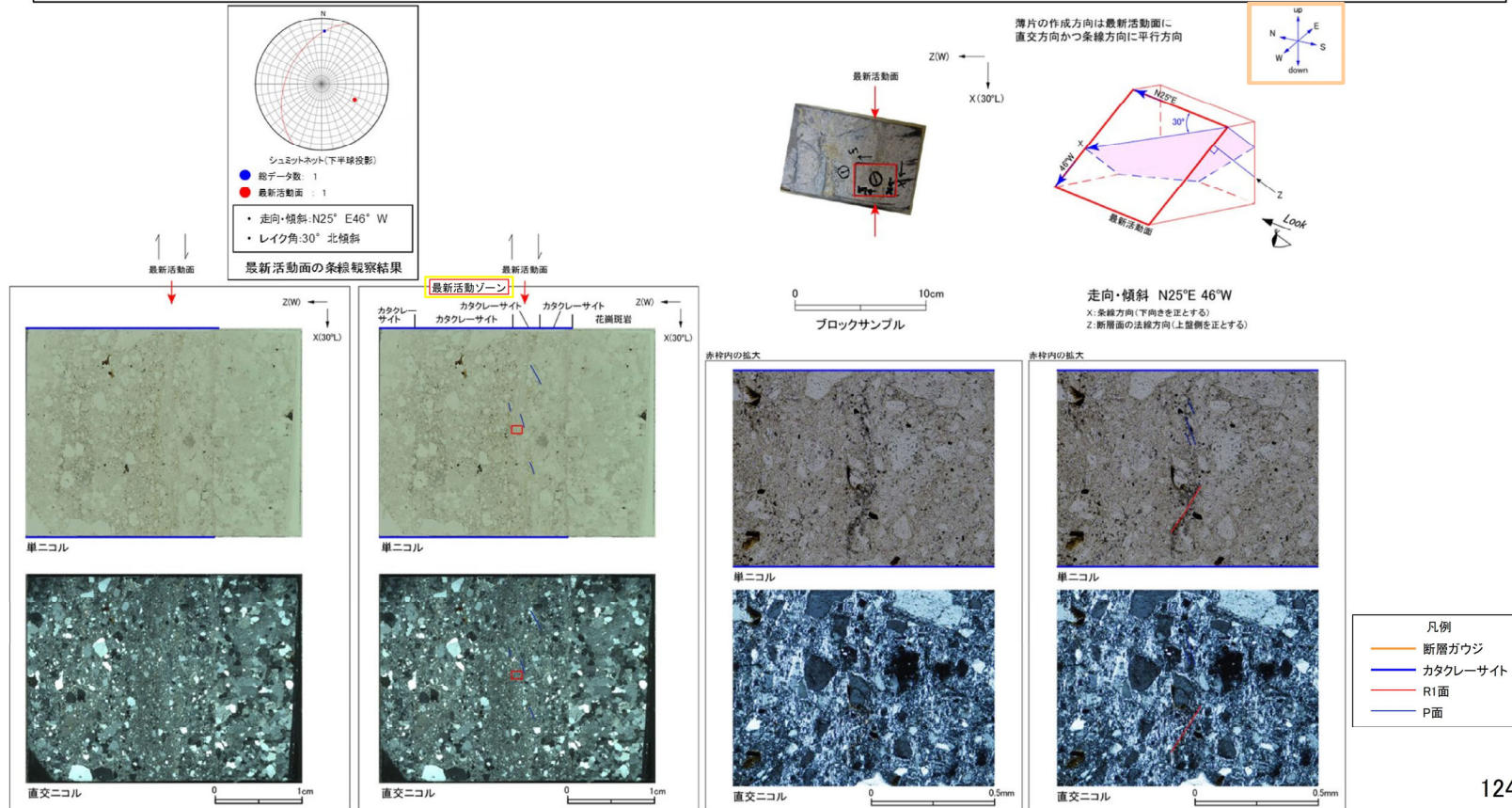
- 以降に、上表の順に修正前後の資料を示す。
- 各資料において令和3年6月28日提出の資料からの修正箇所にオレンジ枠をつけている。

K断層の連続性評価について

第633回審査会合
資料1 修正

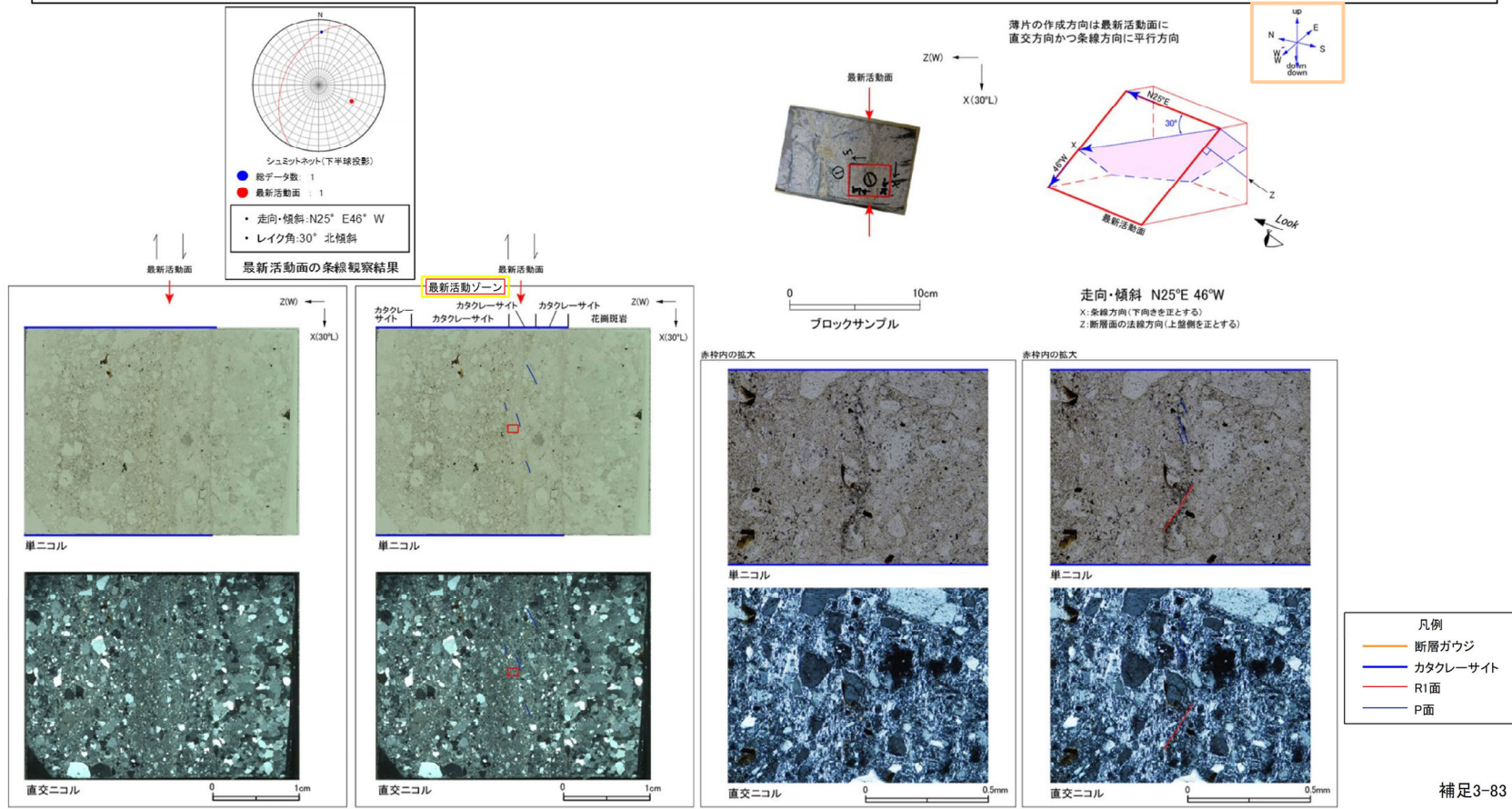
H27-B-1 深度34.54~34.59m 非モデル化破碎部 (1/3)

- ・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度34.59m)の変位センスは、左ずれを伴う逆断層である。
- ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 粘土鉱物は漸移的に変化する。
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- 角ばった岩片が多い。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- ジグソー状の角礫群が認められる。



H27-B-1 深度34.54~34.59m 非モデル化破砕部 (1/3)

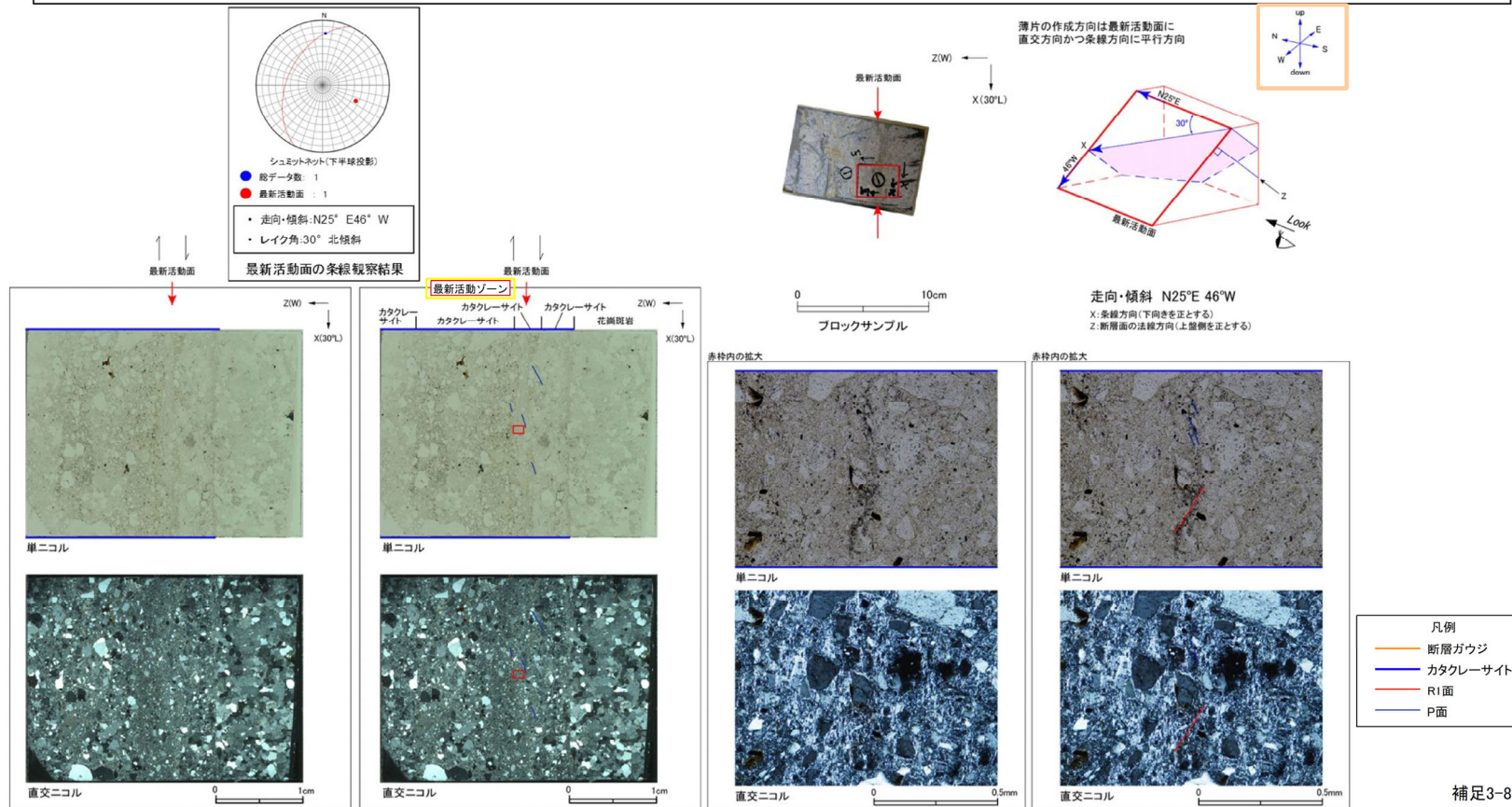
- H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度34.59m)の変位センスは、左ずれを伴う逆断層である。
- 追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 粘土鉱物は漸移的に変化する。
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- 角ばった岩片が多い。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- ジグソー状の角礫群が認められる。



補足3-83

H27-B-1 深度34.54~34.59m 非モデル化破碎部 (1/3)

- H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度34.59m)の変位センスは、左ずれを伴う逆断層である。
- 追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 粘土鉱物は漸移的に変化する。
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- 角ばった岩片が多い。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- ジグソー状の角礫群が認められる。

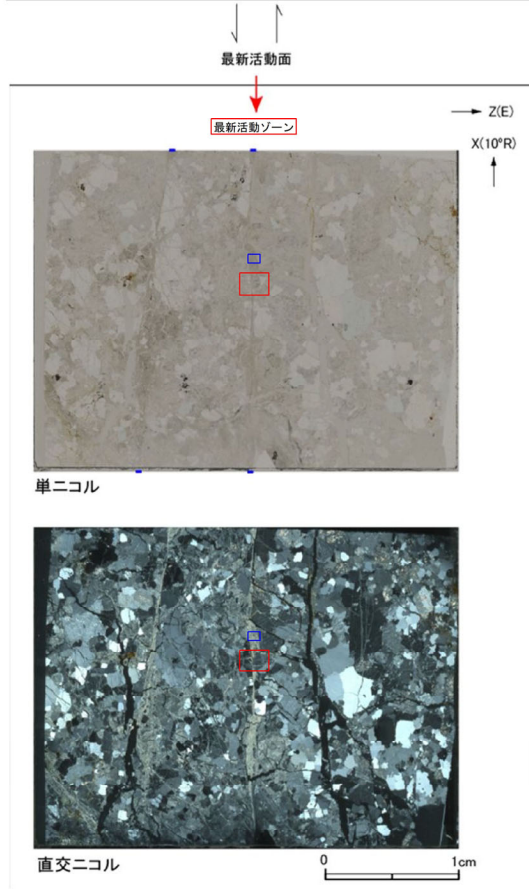


補足3-83

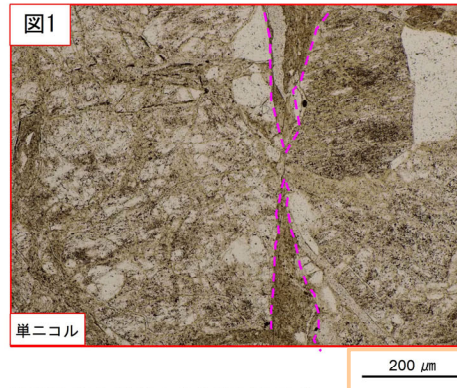
K断層の連続性評価について

H27-B-1 深度52.72~52.81m 非モデル化破碎部 (2/2)

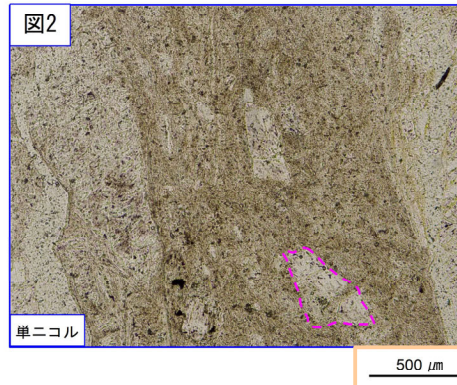
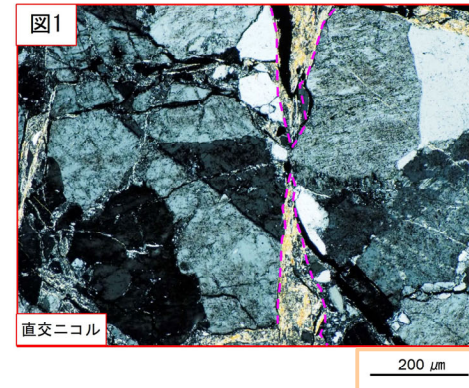
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 岩片は少ない。(図2)
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
- 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は連続しない。(図1)
- 角ばった岩片が多い。(図2)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



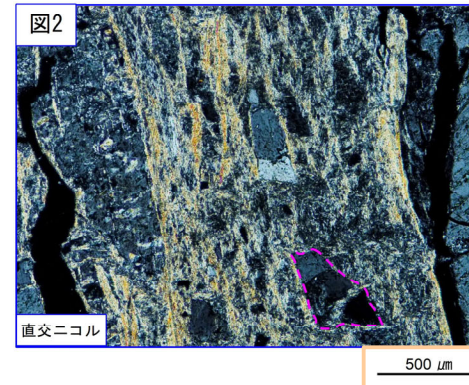
凡例
 断層ガウジ
 カタクレーサイト



破線は粘土状部の分布範囲を示す。



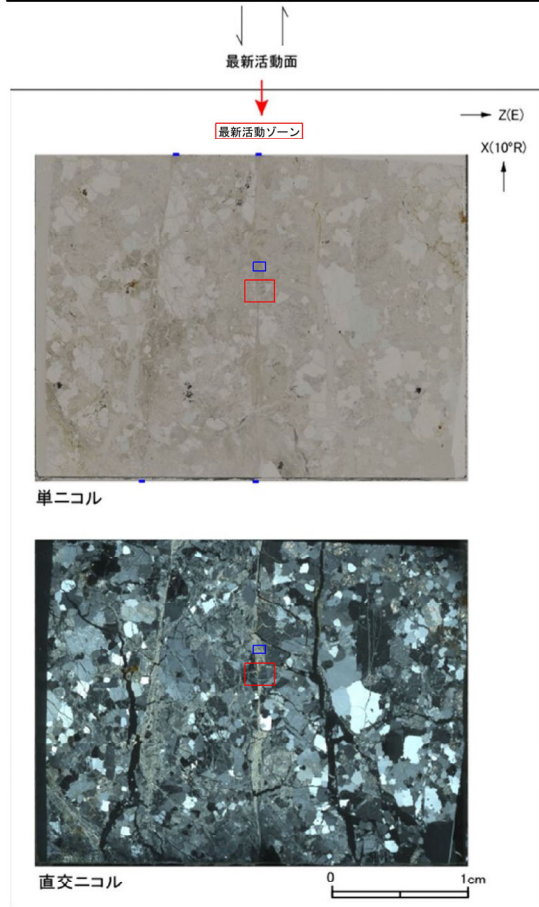
破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。



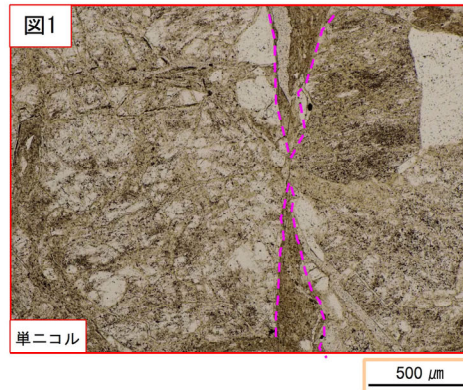
K断層の連続性評価について

H27-B-1 深度52.72~52.81m 非モデル化破碎部 (2/2)

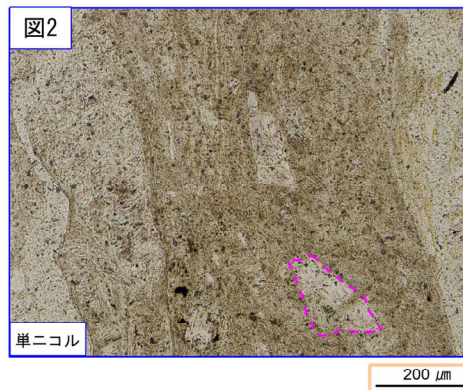
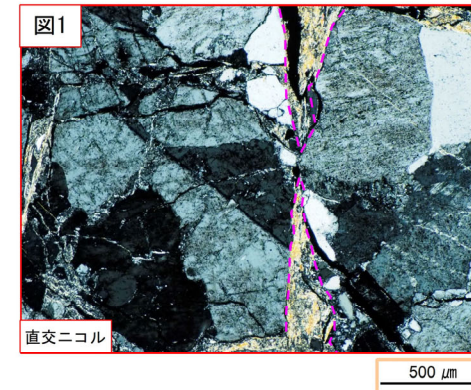
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 岩片は少ない。(図2)
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
- 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は連続しない。(図1)
- 角ばった岩片が多い。(図2)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



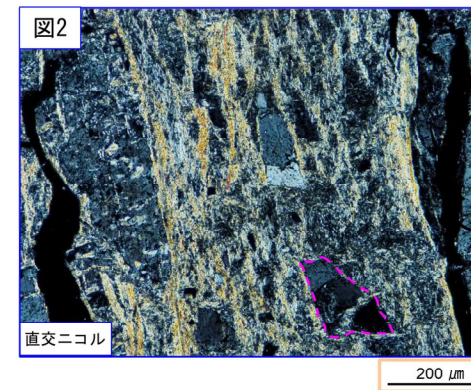
凡例
 断層ガウジ
 カタクレーサイト



破線は粘土状部の分布範囲を示す。

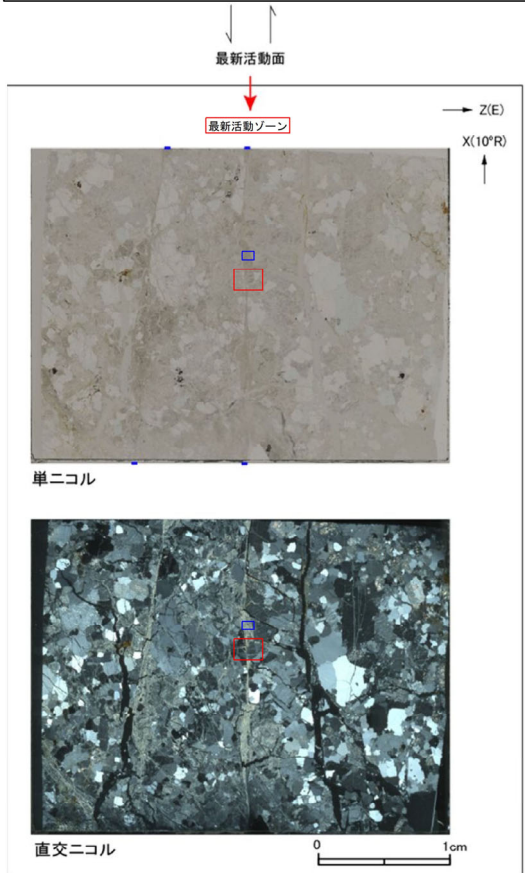


破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。

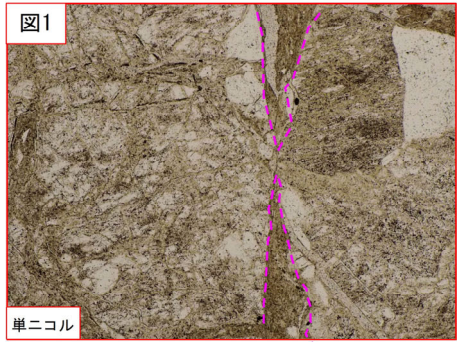


H27-B-1 深度52.72~52.81m 非モデル化破碎部 (2/2)

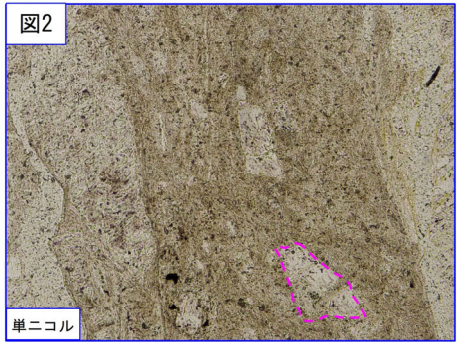
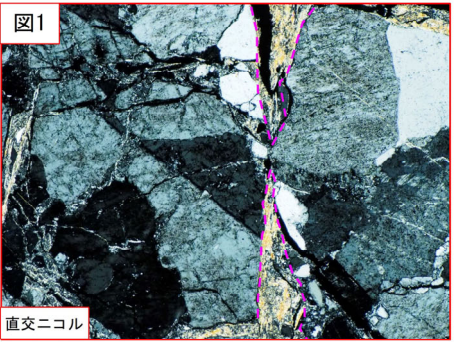
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 岩片は少ない。(図2)
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
- 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は連続しない。(図1)
- 角ばった岩片が多い。(図2)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



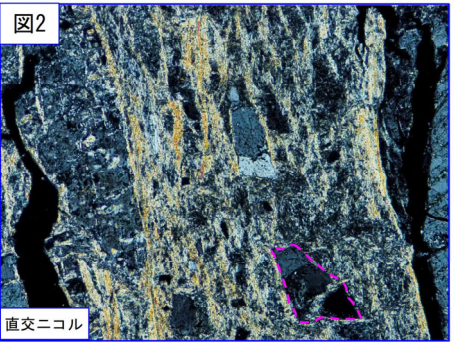
凡例
 断層ガウジ
 カタクレーサイト



破線は粘土状部の分布範囲を示す。



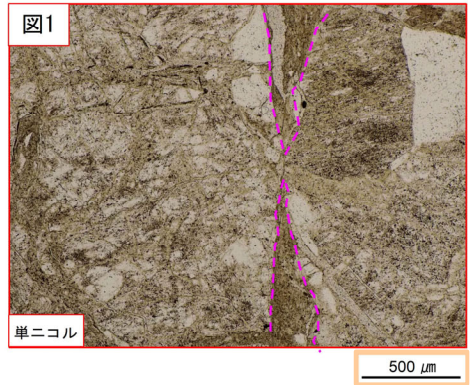
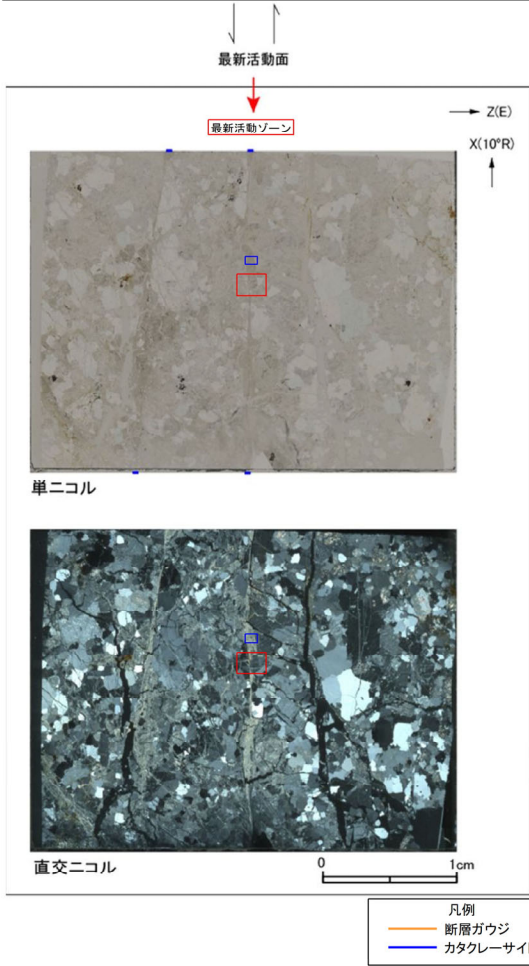
破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。



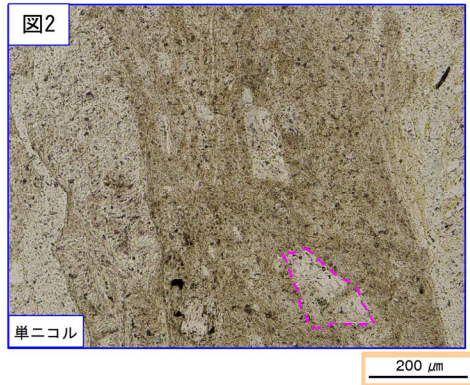
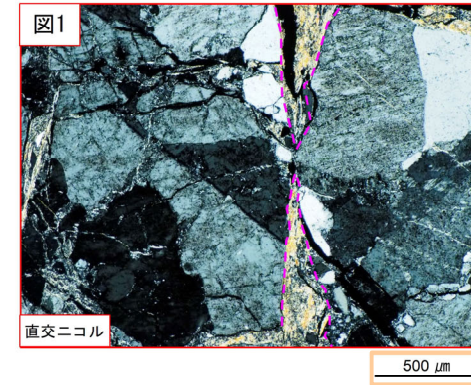
補足3-103

H27-B-1 深度52.72~52.81m 非モデル化破碎部 (2/2)

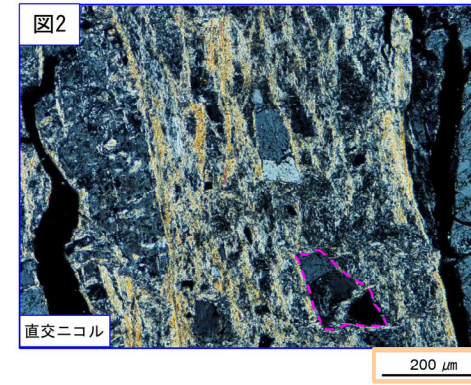
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 岩片は少ない。(図2)
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
- 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は連続しない。(図1)
- 角ばった岩片が多い。(図2)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



破線は粘土状部の分布範囲を示す。



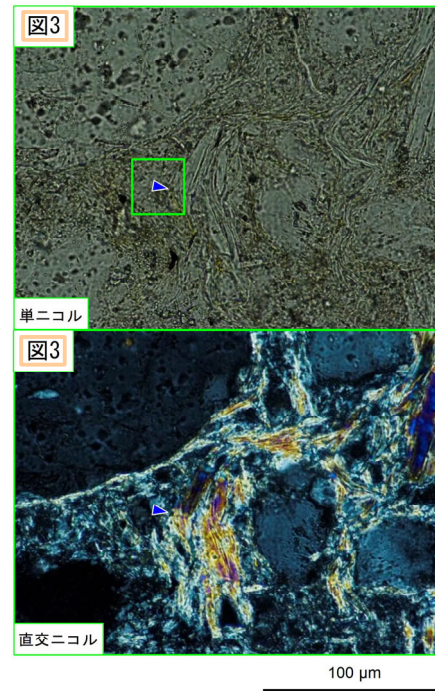
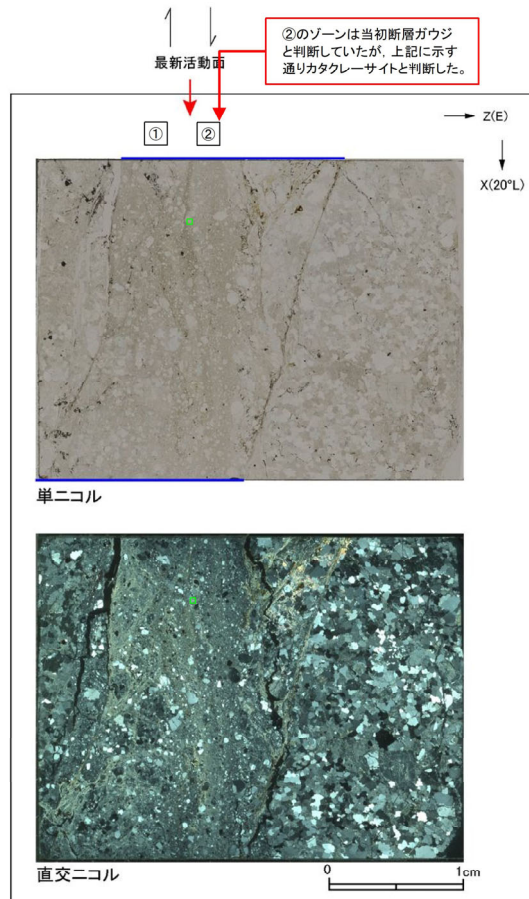
破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。



K断層の連続性評価について

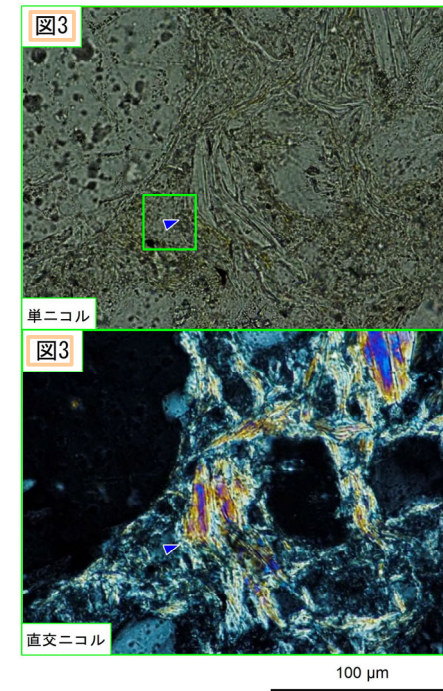
H27-B-1 深度69.70~69.73m 非モデル化破碎部(3/3)

- ②のゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。(図3)



青矢印は屈曲箇所を示す。

→
ステージを
反時計回りに
約27度回転



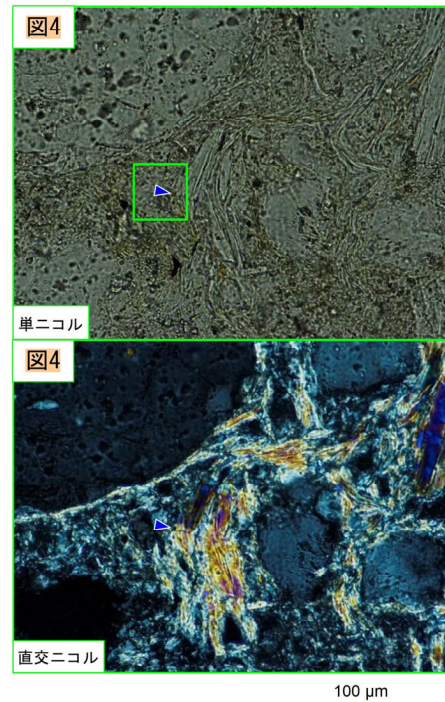
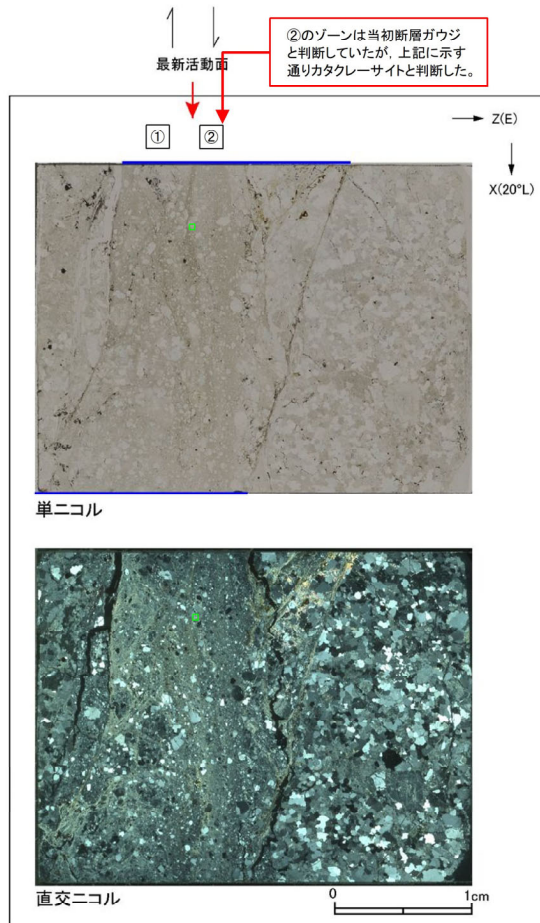
青矢印は屈曲箇所を示す。

- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト

K断層の連続性評価について

H27-B-1 深度69.70~69.73m 非モデル化破碎部(3/3)

②のゾーンには、以下の特徴が認められる。
 > 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。(図4)

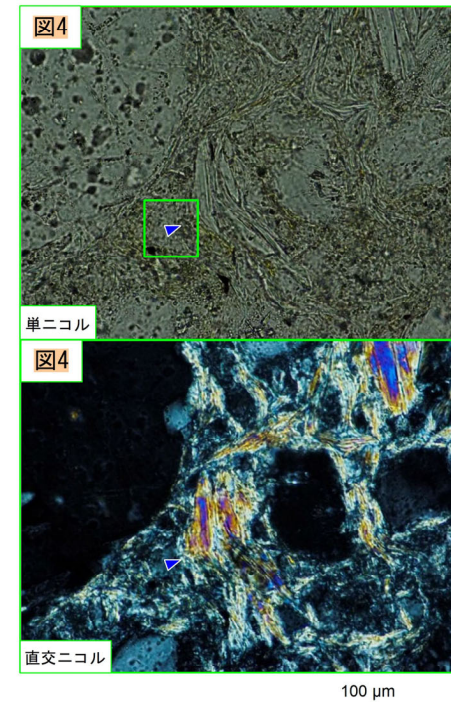


青矢印は屈曲箇所を示す。

凡例
 断層ガウジ
 カタクレーサイト



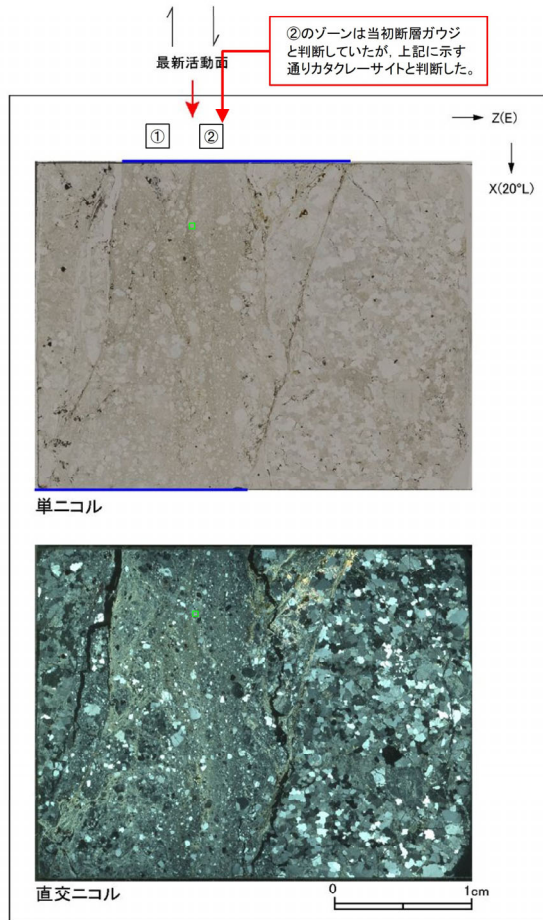
ステージを反時計回りに約27度回転



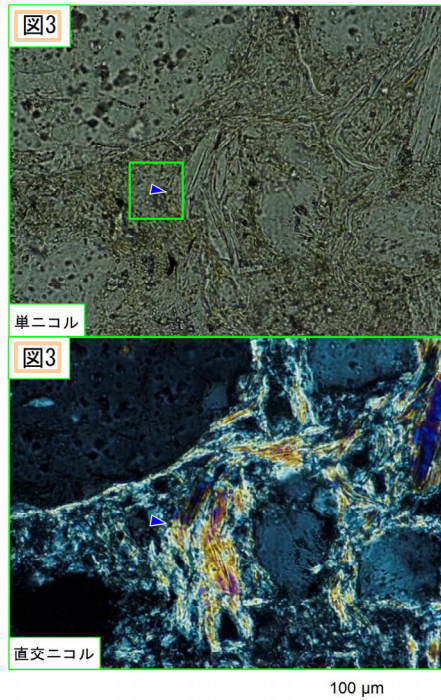
青矢印は屈曲箇所を示す。

H27-B-1 深度69.70~69.73m 非モデル化破碎部(3/3)

・②のゾーンには、以下の特徴が認められる。
➤ 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。(図3)



②のゾーンは当初断層ガウジと判断していたが、上記に示す通りカタクレーサイトと判断した。



青矢印は屈曲箇所を示す。

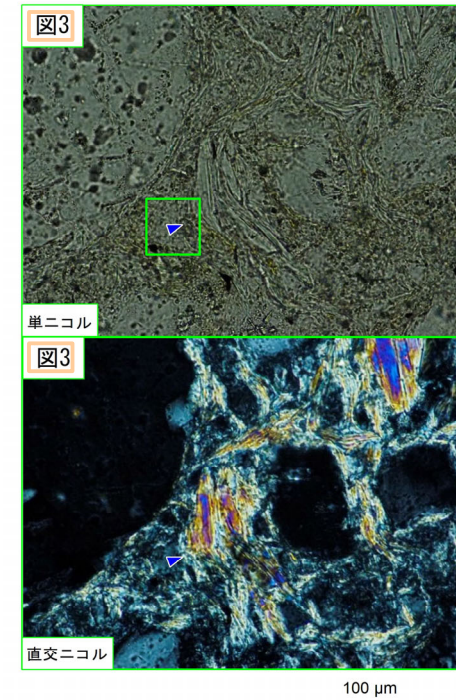
凡例

断層ガウジ

カタクレーサイト



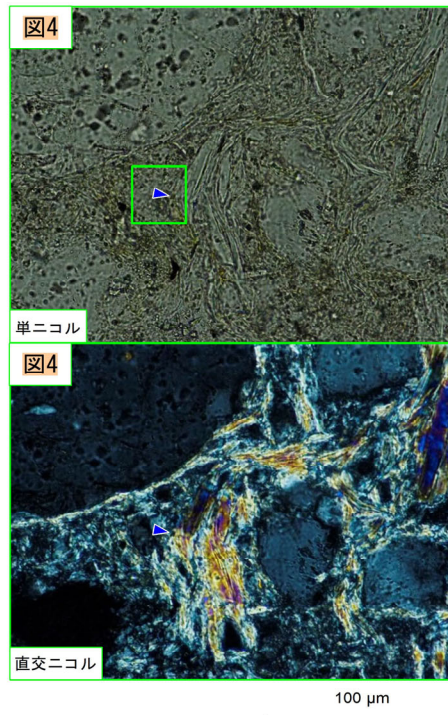
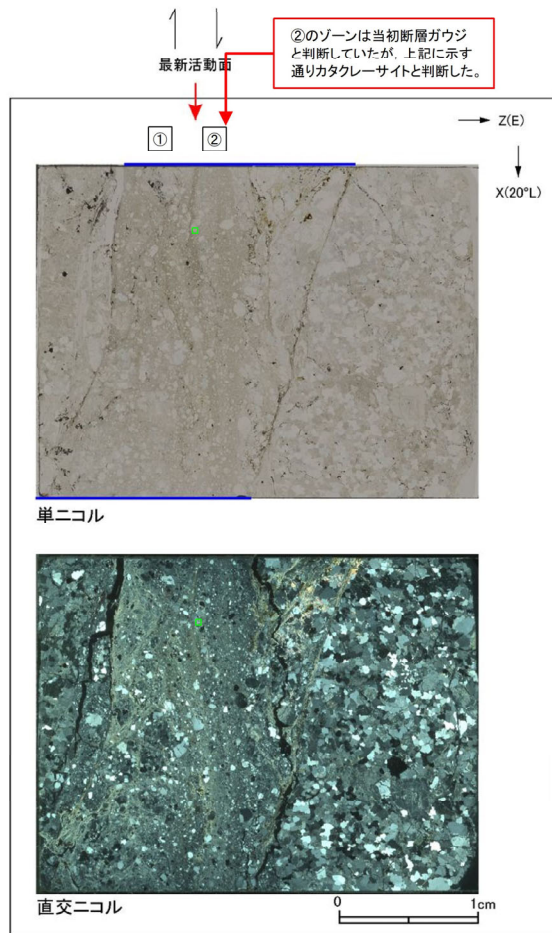
ステージを反時計回りに約27度回転



青矢印は屈曲箇所を示す。

H27-B-1 深度69.70~69.73m 非モデル化破碎部(3/3)

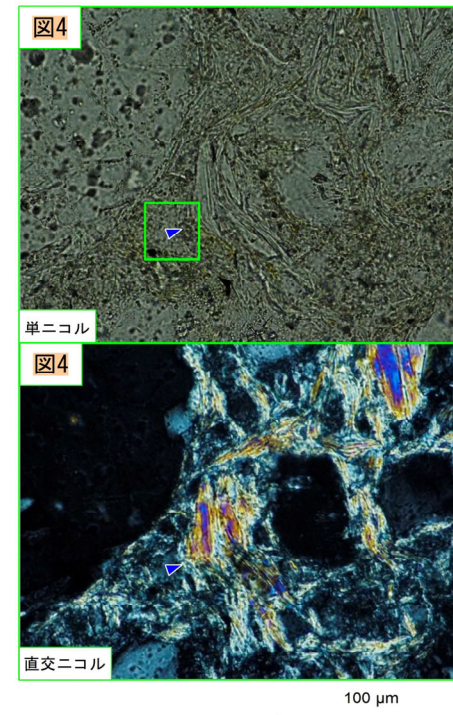
・②のゾーンには、以下の特徴が認められる。
 > 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。(図4)



青矢印は屈曲箇所を示す。

- 凡例
 断層ガウジ
 カタクレーサイト

→
 ステージを
 反時計回りに
 約27度回転



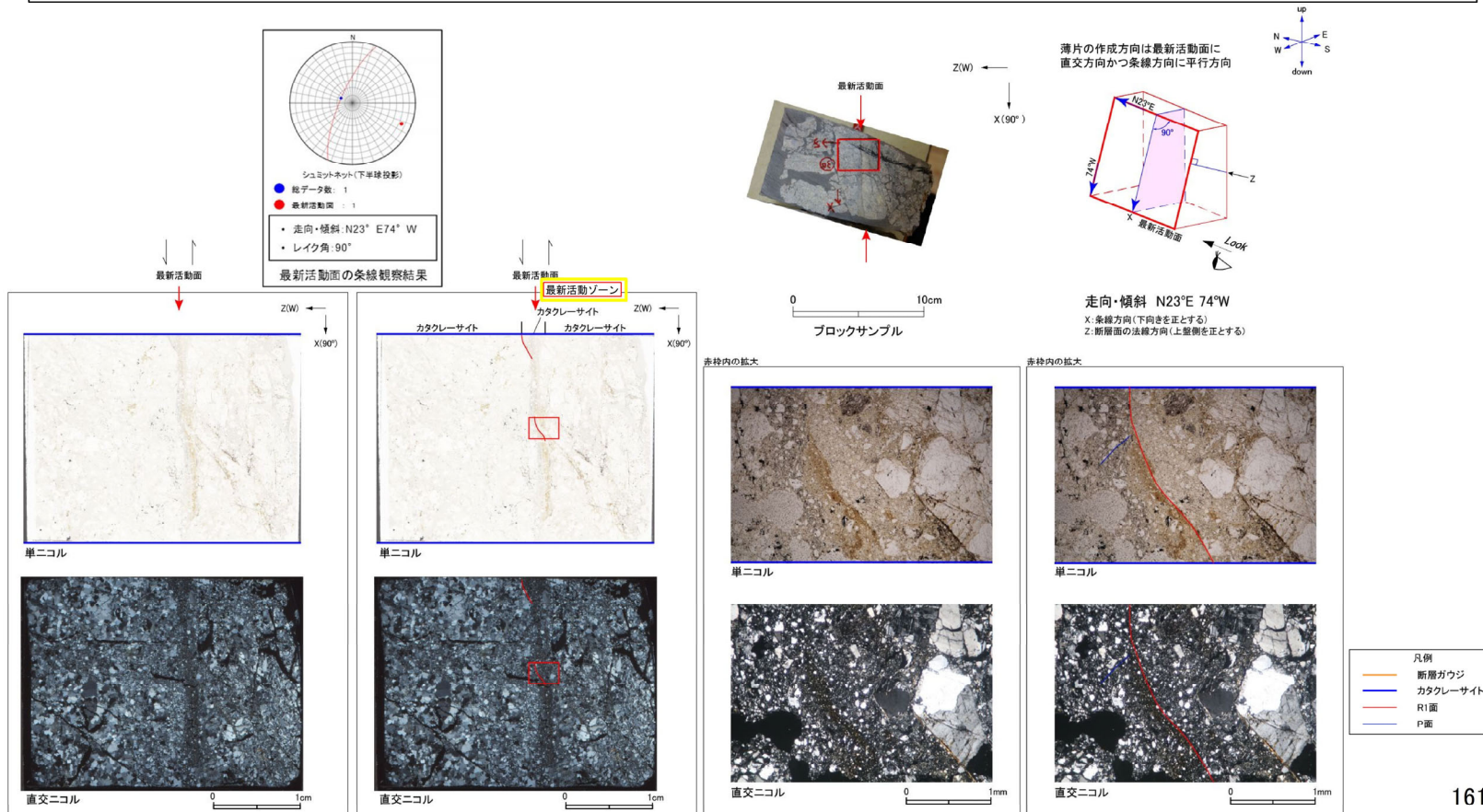
青矢印は屈曲箇所を示す。

K断層の連続性評価について

H27-B-2 深度68.02~68.06m 非モデル化破碎部 (1/3)

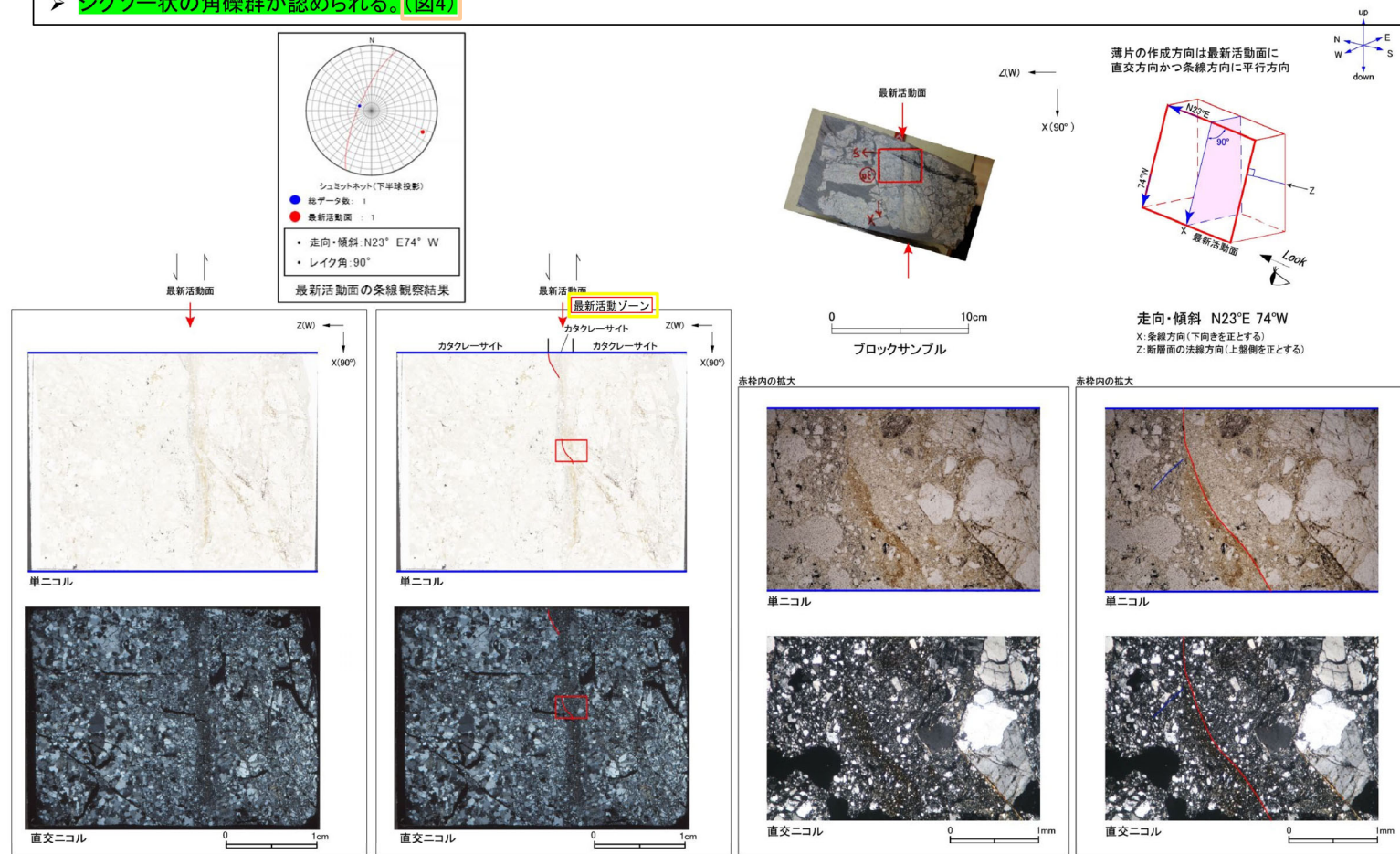
第833回審査会合
資料1 修正

- ・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度68.05m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。
- ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- 角ばった岩片が多い。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図4)



H27-B-2 深度68.02~68.06m 非モデル化破砕部 (1/3)

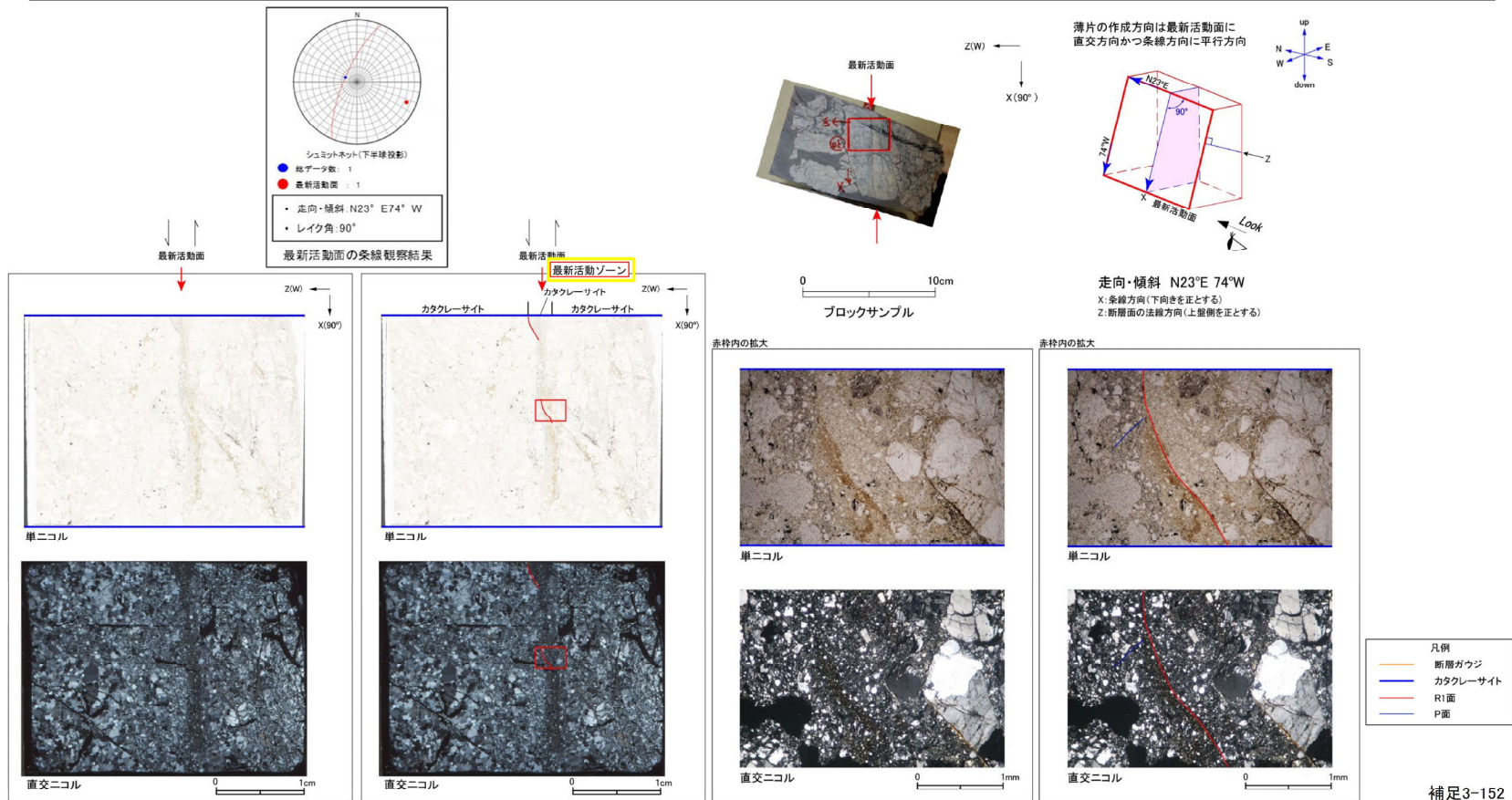
- ・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度68.05m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。
- ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- 角ばった岩片が多い。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- シングソー状の角礫群が認められる。(図4)



補足3-152

H27-B-2 深度68.02~68.06m 非モデル化破砕部 (1/3)

- ・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度68.05m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。
- ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- 角ばった岩片が多い。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- シグソー状の角礫群が認められる。

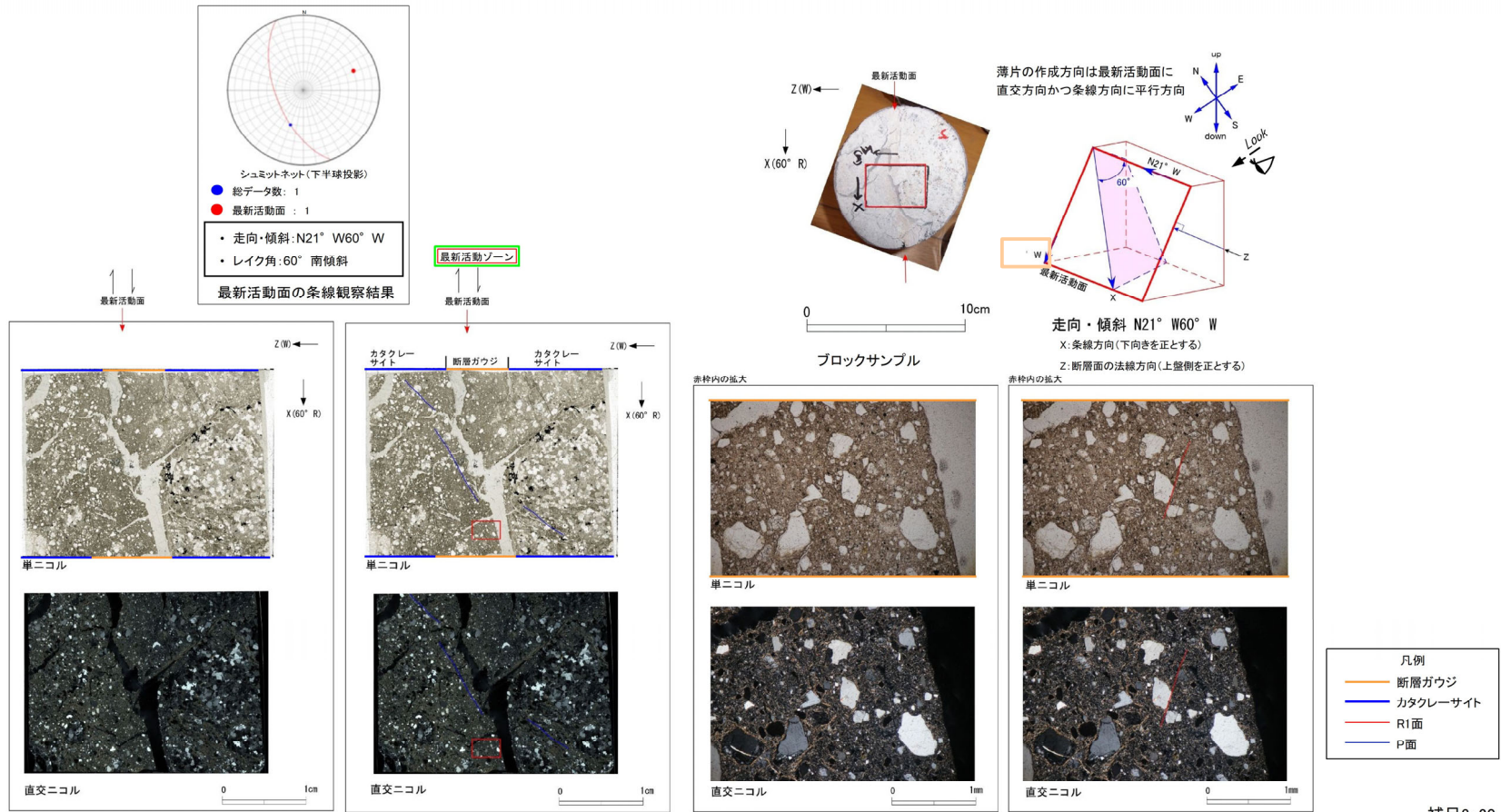


補足3-152

H24-E-2 深度13.23~15.82m K断層(1/2)

・H24-E-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度13.42m)の変位センスは、右ずれを伴う逆断層である。
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。

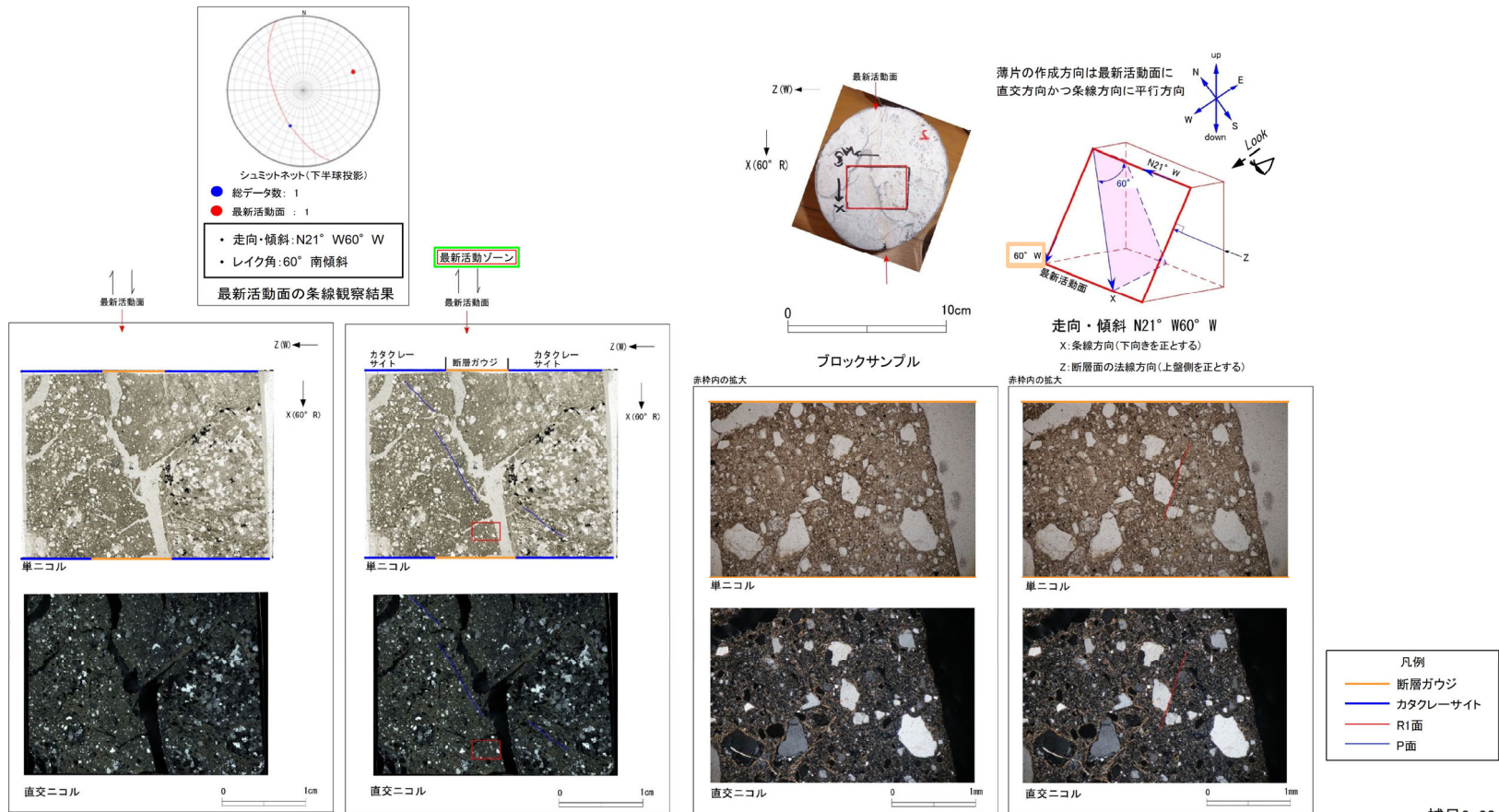
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。



H24-E-2 深度13.23~15.82m K断層(1/2)

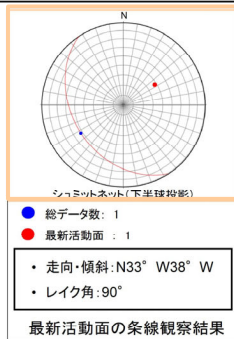
・H24-E-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度13.42m)の変位センスは、右ずれを伴う逆断層である。
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。

- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。



H24-H-6-1 深度9.58~14.36m K断層(1/2)

- ・H24-H-6-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度9.58m)の変位センスは、逆断層成分が卓越する。
- ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。

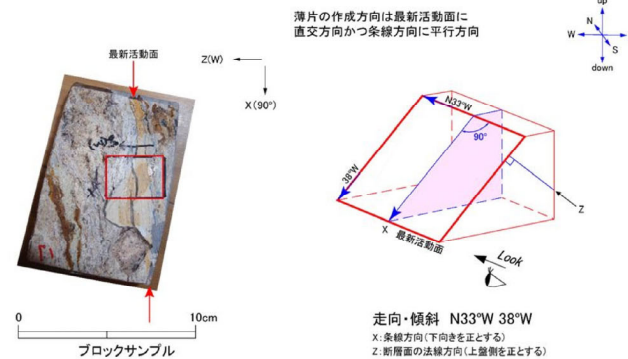


最新活動面

最新活動面の条線観察結果

最新活動ゾーン

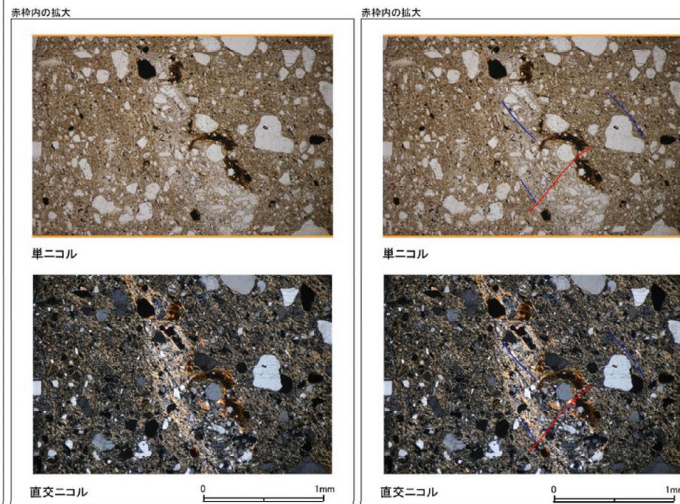
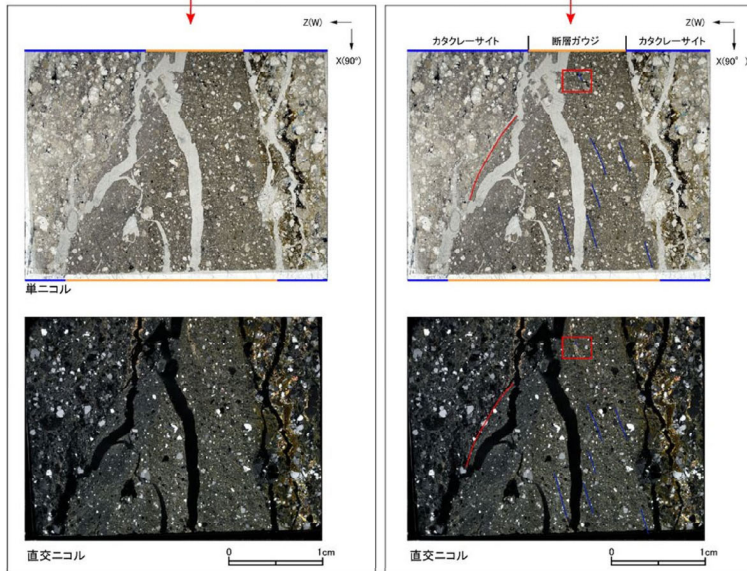
最新活動面



薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向



走向・傾斜 N33°W 38°W
X: 条線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上向きを正とする)

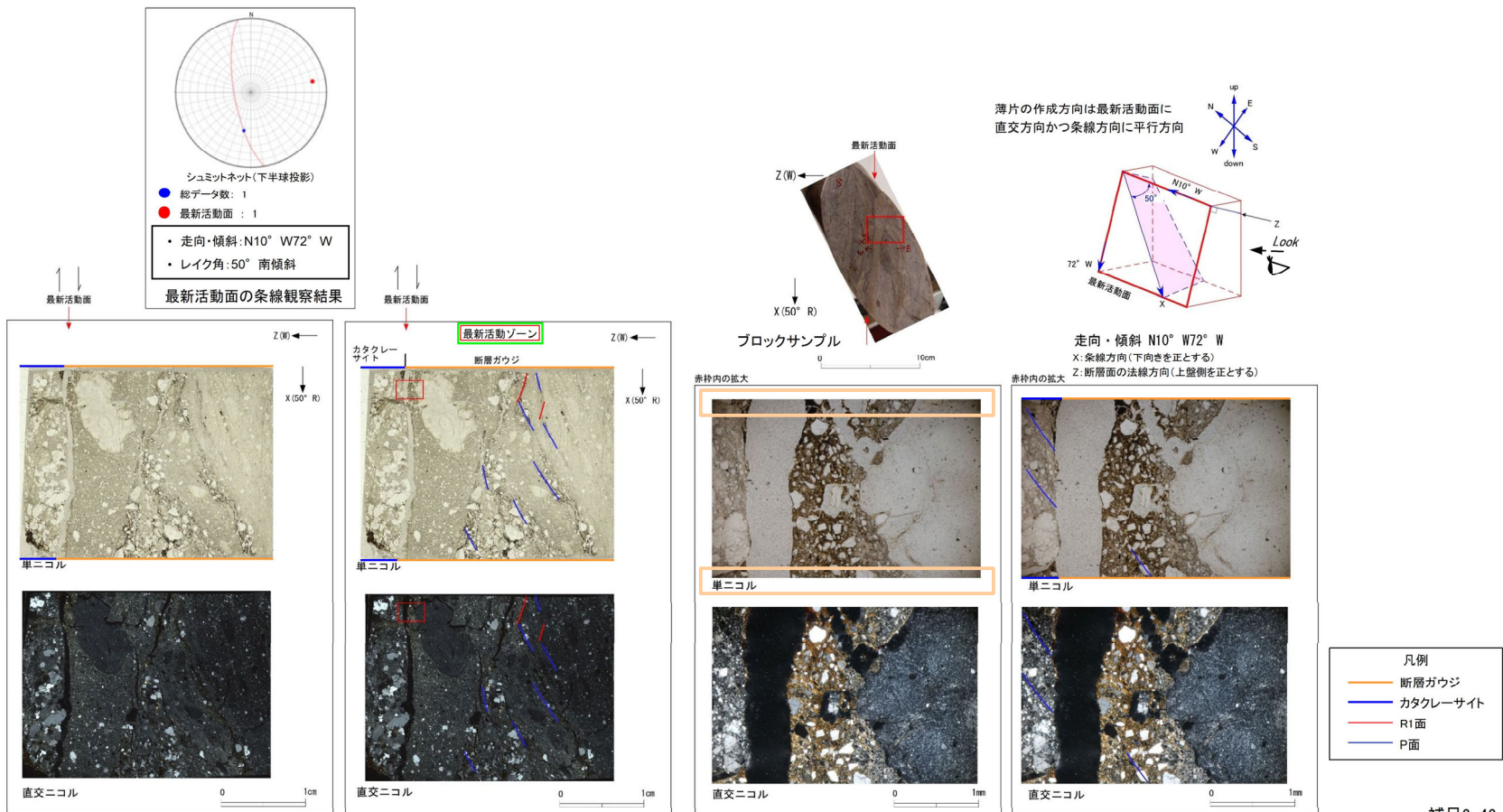


- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H24-H-13 深度8.89~9.80m K断層(1/3)

・H24-H-13のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度8.89m)の変位センスは、右ずれを伴う逆断層である。
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。

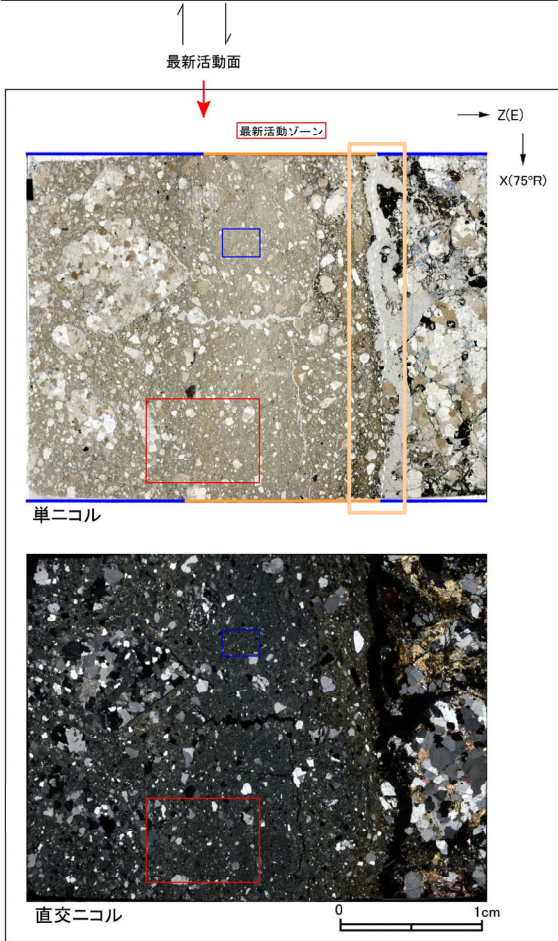
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。



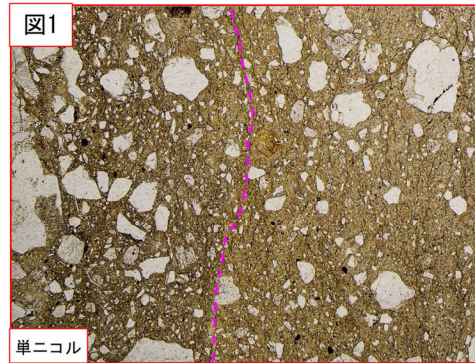
補足3-43

H24-D1-1 深度53.77~54.54m 非モデル化破碎部 (2/2)

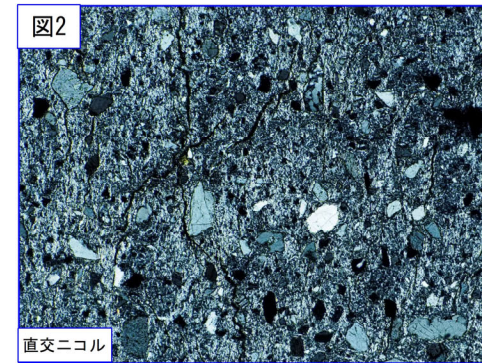
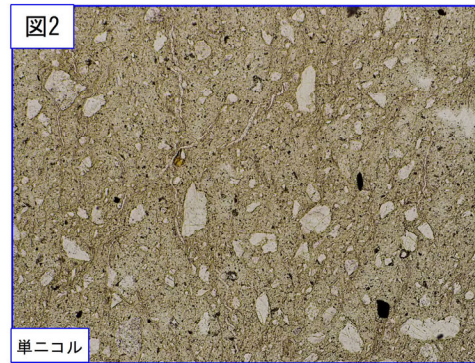
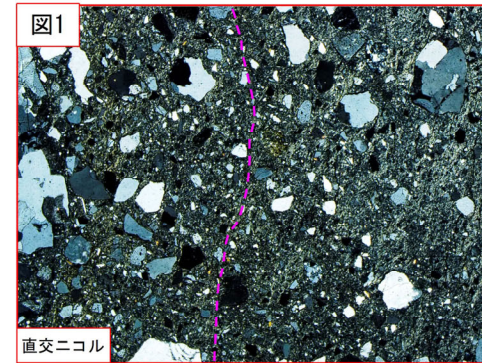
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



凡例
 断層ガウジ
 カタクレーサイト

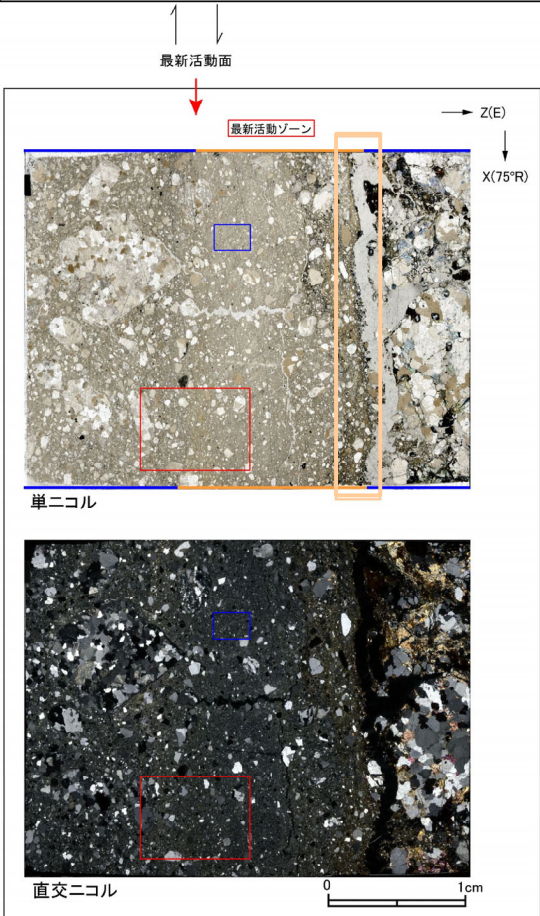


破線は帯状で直線的な範囲を示す。

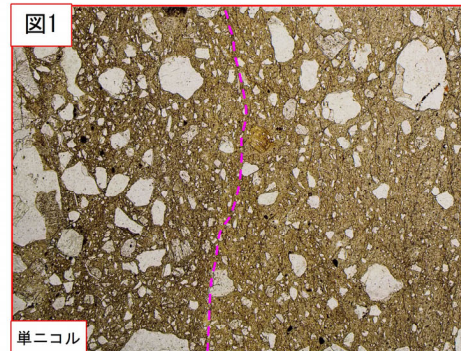


H24-D1-1 深度53.77~54.54m 非モデル化破碎部 (2/2)

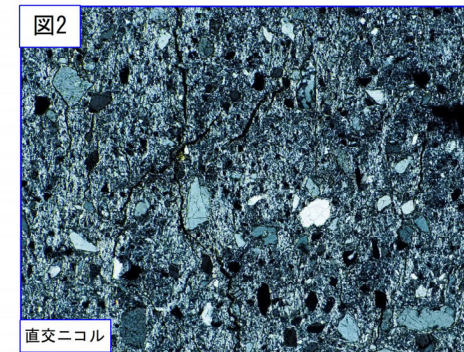
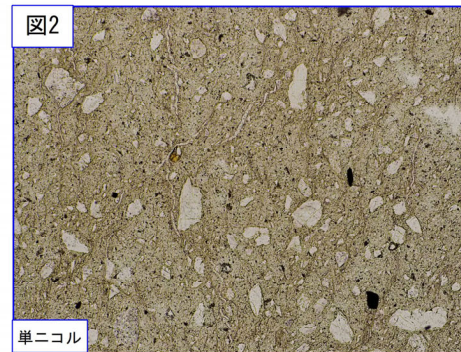
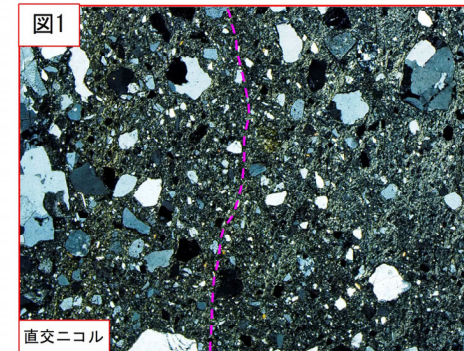
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



凡例
 断層ガウジ
 カタクレーサイト



破線は帯状で直線的な範囲を示す。



余白